

知って当たり前 介護ガイド帳



上原喜光

最近、私のところに来る相談の中身が変わってきた。

今までなら「施設に入れるには」「介護保険をどう利用すべきか」というものが圧倒的だったが、今は「ショートステイから帰ってきたら体にアザがあった」「頭に傷のようなものが……」などと、虐待、と思われる行為についての質問が多くなったのだ。

施設にケガの原因を聞いただと、「風呂場でぶつけた」「転んだ」などと説明されたという。

しかし、よく見たら、転んでできるような傷ではない。このようなトラブルの原因として考えられるのは、施設の職員不足やスタッフ教育が足りないことがある。

となると、要介護者を持つ家族は防御が必要。特養ホームなどから帰ったら体をチェックし、早めにトラブルを見つけることが重要です。高齢者は我慢強く、人の悪口を言

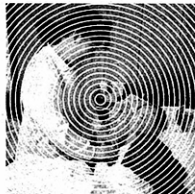
わない世代ですので、周りが早く気づき、事業者側と相談することを勧めます。手取り早く虐待を防ぐには、デイサービスやショートステイならば、「施設を替える」ことです。

ホームヘルパーの相談も増えています。親身に介護してくれない、機械的で温かさがなく、そもそも性格的にウマが合わない場合もあります。

このケースは、ケアマネジャーに相談し、ヘルパーさんを交代してもらうのが一番です。

また、訪問介護に来てもらうたびに「モノやお金がなく

なる」といった相談も受けます。認知症気味の親もいるため、家族は「勘違いだろう」「どこかに忘れたのでは」と本人を責めることもあります



が、これはやめましょう。紛失物のチェックも家族の役目です。

事業所にいくらお願いしても一向に改善されず、ケアマネジャーも受け付けられない場合は、地域の保健福祉課などに相談してください。

ナアナアで済まさないことが、ヘルパーや施設のサービスの向上にもつながるので

です。
(全国介護者支援協議会会長)

虐待防止にはヘルパーの交代もあり